

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207496		
法人名	有限会社 まつかさ園		
事業所名	グループホームまつかさ園		
所在地	秋田県能代市二ツ井町字下野家後95-19		
自己評価作成日	平成25年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成25年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念に基づき、利用者様一人ひとりのニーズに合わせ、その入らしく、生き活きた生活をおくり、安心、安全な生活環境を整え、「ここが我が家」と思えるよう住み慣れた地域で、利用者様職員助け合いながら生活されているところをアピールします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明確な理念が作成されており、職員が見守りながら可能な限りできる事をしていただき、利用者のペースに合わせて自立に向けた支援が行われています。運営推進会議で提案されたことを検討して運営に活かせるよう取り組み、地域との関わりも大切にして運営されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作成し、代表者、管理者と職員は共有し、日々目にする所に展示し実践につなげている。	利用者の立場に置き換えて考えられたという理念が掲示されており、利用者が自由に気兼ねなく生活できるようサービス提供されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に参加したり、近所の方への日常会話、あいさつ等日常的に交流している。	近隣の福祉施設や地域の行事にはほぼ全員の利用者が積極的に参加し、日常的に地域と関わりが持てるよう支援されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議、ほっとネットニツ井等にて認知症の人の理解を深め地域住民の貢献を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者様、家族さん、市役所職員、地域包括センター職員、民生委員、区長等に参加していただき、その中での意見等を取り入れ、サービス向上に活かしている。	参加者からホームの取り組みについて意見や提案、地域の情報があり、サービスの向上に活かせるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市民福祉課職員が参加され情報提供していただき、協力関係を築いている。	利用手続きの相談等、連携しながら協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全職員拘束の理解をし、玄関に施錠もかけることなく、身体拘束をしないケアに努めている。	勉強会を行って拘束の弊害を理解されています。言葉かけにも注意し、拘束をしないケアを実践されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修等にて全職員十分に注意し虐待を見過ごさないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている利用者様おり、制度について理解を深め活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族さん等わかりやすく説明し、理解、納得を図り契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族等気兼ねなく話していただけるような場面をつくり、それを運営に反映させている。	遠方に住む家族も面会に来てくれており、何でも話していただけるように努力されています。	家族の意見を気軽に表出できるための工夫を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、年2回の賞与時に意見、目標等を話し合う機会を設け反映に努めている。	意見を出し合ってケアの統一を図る等、会議での話し合いが運営に反映できるように取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働くことができるよう良い職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修、職員会議等職員を育てる取り組みに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、ほっとネットニツ井等同業者と交流の場を作りサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心配事、不安な事等を遠慮なく話していただけるよう耳を傾け、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんの不安、心配事はなにか、話しやすい場面づくりをし信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの意見や、やり方等を重視し支えあい家庭的な雰囲気で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携を図り、面会時電話、お便り等で職員は本人と家族の絆を大切に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事、買い物、通院等住み慣れた場所、人との交流が途切れないよう努めている。	友人が訪問してくれたり、外出先で地域で暮らす方々と触れ合える機会を多く持ち、その関係が途切れないように支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう出来る限りリビングにきていただき利用者様同士の係りを大切に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ本人、家族さんと連携を行い、相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの暮らし方の想いや希望、意向を十分に把握し、その人らしい生活が送れるよう検討し取り組んでいる。	利用者の思いを聞いたり、日々の生活の中で意向を汲み取り、担当職員を中心に話し合って検討されています。	利用者の立場で様々な思いや意向を確認し、記録に残しながら、更に本人本位となる工夫を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活歴を活用して、本人の経験を活かし馴染みの暮らし方、生活環境を作り支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さん一人ひとりの心身状態を把握、その人の能力に応じて1日の過ごし方を行い現状の把握に取り組んで行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんに担当職員を定めケア会議等担当者より優先課題について話し合い本人、家族から意向を収集、現状に即した介護計画に取り組んでいる。	介護計画に基づいた記録がされており、担当職員のモニタリング後、職員全員でカンファレンスを行って、現状に即した介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を認知症介護の実践や介護計画に活かし、介護計画に実施期間を明示、終了後、モニタリングを行い、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人達と関係を深めることで入居者さんの生活の拡がりや充実を大切に回り支援してくれるように働きかけを行っている。(日常的、行事等、ボランティアの支援)		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に際しては利用者さん及び家族の希望を尊重し、かかりつけ医に通院を支援し、必要に応じては歯科医による往診等で医療をうけるように取り組んでいる。	職員の介助により、本人、家族の希望する医療機関で受診されています。状況に応じた往診、訪問看護師との連携等、適切な支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に利用者様の状況報告を伝え、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに家族さんへ連絡を行い、入院先とも情報交換し、出来るだけ早期退院できるように協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者さん、家族さんに不安を与えないよう、事業所側が出来る事を見極め、主治医と連携して支援にあたっている。	医師、家族と十分な話し合いを行い、医療行為ができないことを理解していただいた上で取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時、迅速な対応ができるよう緊急事態の対応策のマニュアル作成、研修等で実践力を身につけて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練、防火管理者による点検。災害時の食料の備蓄対策等を行い過去の水害時の教訓を活かし、一般住民との別の避難場所を行政に働きかけ確保されている。	近隣の福祉施設合同訓練、町内の訓練も行われており、地域や他の福祉施設との協力体制が築かれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さん一人ひとりの人格を尊重し、利用者さんの尊厳を傷つけないような声かけ、態度に努めている。	理念に則って利用者の自由な生活を支援し、一人ひとりに合った対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の願いや希望、自己決定できるよう信頼関係を築き働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし本人が自由に自宅にいるように、気兼ねない日々の過ごし方を観察し希望に添った取り組みを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	入居者一人ひとりの個性を大切に髪型、服装を本人の望む支援、理容室も入居前に利用された所の継続の配慮に取り組んでいる。外出困難な方は訪問理容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さん一人ひとりの希望、好みを取り入れ食事メニューの作成にあたっている。ゆっくりと食事を行い準備、後片付けも一緒に行っている。	献立を一緒に考えたり、食材の買物に同行したりしてできることを一緒に行っています。野菜づくりやお弁当持参でお花見に出かける等、楽しみに繋がる工夫をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者に対しての1日のカロリー計算を通して栄養のバランス、水分量に十分配慮、夜間対も水分補給をできるように準備されながら習慣に応じた支援に取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者さんの力を引き出しながら口の中の汚れ物や臭いが生じないように口腔ケアをし、寝る前義歯の方は洗浄液使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン習慣を活かして誘導、下げることができない場合は介助を行い、失敗時はプライドを傷つけない様配慮し、オムツの使用を減らしプライバシーに配慮された自立支援を行っている。	排泄パターンを把握し、個々に応じた介助を行ってトイレでの排泄を支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分補給、規則的食事の摂取を行い食事の工夫、個々に合わせ、ヨーグルト、ヤクルト等での配慮、高齢者の便秘等を職員は理解し症状を観察し行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるよう支援し、健康状態を確認上でプライバシーを配慮個々にそった支援に取り組んでいる。	利用者の希望や状態に配慮し、楽に気持ち良く入浴できるように支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には1日の生活リズムづくりを通した安眠策をとり緊張、疲労の程度を確認し安心して気持ちよく就寝できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用する薬の目的、副作用、用法、用量を承知し、入居者一人ひとりが指示通り適切に服薬を行い症状を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かしては掃除、食器拭き等を日課を継続されている入居者にスタッフから感謝の声かけを行っては張り合いや喜びを与えている。個人の楽しみ(ちぎり絵、折り紙、塗り絵)等趣味を活かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	地域の行事等に参加されたり、入居者さんの希望に沿って散歩、ドライブ、買い物、自宅への本人の希望を取り入れ、家族、地域の人々と出かけるように行っている。	全員で出かけたり、個々の希望に沿って出かけたしたりして、戸外に出かける機会をつくっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんがほしい物があつたらホームにお金を預けているので遠慮しないで購入するようお話しており、職員も理解し買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に電話をかけられたり、職員から家族に手紙を書き、年賀状も自立で書ける人は自立で行わせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音、臭い等に配慮、季節感を取り入れられたり、季節に応じ飾りを変えたり利用者の作品、小物等で家庭的な雰囲気づくりで快適に過ごせる空間づくりに取り組んでいる。	季節に合わせた作品を職員と一緒に作成して飾られ、季節を感じるができるように配慮されています。ソファーや畳スペースで自由に過ごせる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	入居者同士の助け合いや気持ちの支えあいができるような支援と日常的に行っては仲の良い入居者同士が過ごせる配慮、孤立しがちな入居者が交わる機会を作り、思い思いに過ごせる居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に際して馴染みの物を持参されることを説明しこれまで使っているベット、タンス、テレビ、備品、家族写真等を飾り個性あつた生活空間づくりの支援を行っている。	カーペットやちゃぶ台等、居室で使用するものは全て持ち込まれ、使い慣れたものを使用することで、利用者が生活しやすい環境をつくっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて自立して安全に歩行できるように手すりを全体的に設置、玄関には折りたたみ椅子設置し、身体機能に合わせギャッチベット等を入れたり安全配慮されている。		